農旭 PTAニュース

発行 編集 北海道旭川農業高等学校PTA事務局

2019年12月25日
（令和元年度）
No.133

クラブ後援会長より

クラブ後援会長
長谷川　新

保護者の皆様には、日頃より旭農高ＰＴＡ・クラブ後援会活動に多大なるご理解とご協力をいただき心よりお礼申し上げます。

令和元年も残りあと少しという時期となり、三年生も進学、就職ともに順調に決定してきているところです。また、一、二年生についても授業、農業クラブ活動、部活動で自分たちが主体となって頑張っていることと思います。

学校生活も後期に入り、農業クラブでも意見発表や実績発表、農業技術検定の各部門で全道、全国大会を目指して日々頑張っている時期となっています。子ども達の成長が著しく、多感なこの時期に学校の授業を通して実社会の同じ舞台に挑戦し結果を出していくことはこれからの就職や進学に大きく役立つと思っています。

保護者の皆様には、学校祭や懇談会、説明会等の行事に積極的に参加し、子ども達の学校での様子を見ていただき、先生方との交流を深めていただきたいと思います。担任の先生だけでなく、たくさんの先生方が子ども達一人一人を親身になって指導してくださっているので普段親の前では見せない一面や大人な考え、それぞれの個性を把握したくさんのアドバイスをしてくれます。また先生との交流を深めることでこれからの進路決定についてもスムーズに進めることが出来ると思っています。

私たちも学校行事やＰＴＡ活動を通じて、先生方や保護者同士の交流を図っていただき、情報の共有を図りながら共に考え、活動していきたいと思っています。

皆様には、今後ともＰＴＡ・クラブ後援会活動にご理解ご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

新学習指導要領と農業クラブ

校長　田村　弘樹

保護者の皆様には、平素から本校教育活動の推進に格段のご理解とご支援を頂いておりますことに厚く御礼申し上げます。平成から令和に改元された節目の年も師走を迎え、学校では年度のまとめと次年度計画に向け一年間の中で最も大切な時期を迎えています。皆さんとともに、子どもたちが着実に成長していけるよう、フレキシブルに一段上の充実を目指す教育活動を展開していきたいと思います。保護者の皆様には、これから学校評価アンケートのご協力をいただくよう準備を進めています。生徒、保護者、地域の声を丁寧に拝聴させていただき、次年度につなげていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いします。

さて高校では、新学習指導要領の移行期間に入っています。改訂のキーワードは「社会に開かれた教育課程」、「カリキュラム・マネジメント」、そして「どのように学ぶか、何ができるようになるか」という三点に集約されます。子どもたちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携を進めていくこと。知識・技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを重視しつつ、知識・技能の理解と質をさらに高めていくこと等が柱になっています。小・中学校では当たり前のように行われている主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善も、高校では研鑽を重ねつつ実践の広がりを見せています。

一方、新学習指導要領の趣旨を生かした実践の一つの形に「学校農業クラブ活動」があります。今年は日本学校農業クラブ北海道連盟七〇周年、北海道農業クラブＯＢ会四〇周年の記念の年を迎え、来年一月に全道実績発表大会を記念大会とし本校当番校で開催します。農業クラブの活動の成果をもっともっと多くの人に見ていただき、その手法や成果、効果を議論しさらに充実させていくことが、少し大袈裟になるかもしれませんが北海道教育のキーになるものと考えております。今年は某テレビ局の連続テレビ小説でＦＦＪ（Future Farmers of Japan）の歌をヒロインが歌うシーンが放映されました。一九五一年に制作されたＦＦＪの歌は、農業クラブの各種大会や行事で歌い続けられている歌です。ＯＧ、ＯＢ、視聴者を中心に全国で話題になり、ツイッターでは使用頻度の高い語句としてトレンドに上がるほどにもなりました。十月に山形県で行われた農業クラブ全国大会では、ヒロイン役の広瀬すずさんのメッセージも日連代表の方より伝えられました。クラブ員の意気と熱、友情や活動の成果をこれからも多くの方に見ていただければと思います。

令和二年もさらによい年となるよう、毎日毎日を積み上げてまいります。今後とも変わらぬご支援をいただきますようお願いいたします。

お知らせ

十一月十五日金曜日午後に予定しておりました、今年度のＰＴＡ研修会につきまして、荒天の予報による後学期中間考査の日程変更に伴い、中止とさせていただきました。

令和元年度 生徒会・農業クラブ 役員一覧

生徒会執行部

《会　長》稲垣　陸空（２Ａ）
《副会長》衣川　馨竣（２Ａ）
《副会長》高道　琴未（２Ｌ）
《書　記》工藤　弓奈（２Ｍ）
《書　記》杉内　佑菜（２Ｌ）
《会計》望月　康孝（２Ｆ）
《会計》谷　透生（１Ｆ）
《監　査》大澤　淳志（２Ｆ）
《監　査》西山　悠希（１Ａ）
《監　査》鈴木　皓大（１Ｆ）
《保健安全委員長》相澤　遥花（１Ａ）
《風紀委員長》大橋　紗矢（１Ｌ）

農業クラブ執行部

《会　長》古瀧　朋香（２Ｌ）
《副会長》木下里萌音（２Ａ）
《副会長》佐藤　綾菜（２Ｍ）
《書　記》舘野あさひ（２Ａ）
《書　記》岡部　栞奈（２Ｍ）
《会計》柿木　雪菜（１Ｌ）
《会計》川原　ゆう（１Ｌ）
《監　査》能登　彩奈（１Ａ）
《監　査》木本　愛奏（１Ｍ）
《監　査》狗飼　海斗（１Ｆ）

二学年　見学旅行

一日目　十月二十七日（日）
新千歳空港→伊丹空港
なんばグランド花月
大阪キャッスルホテル泊

二日目　十月二十八日（月）
薬師寺→東大寺→金閣寺
→嵐山散策
アークホテル京都泊

三日目　十月二十九日（火）
京都市内自主研修
アークホテル京都泊

四日目　十月三十日（水）
京都→東京（新幹線）→
東京ディズニーリゾート
ホテルエミオン東京ベイ泊

五日目　十月三十一日（水）
都内自主研修→羽田空港
→新千歳空港→学校

歴史を感じ 多くを学んだ 見学旅行

２Ａ　三浦　大地

私たちは十月二十七日から十月三十一日の五日間、見学旅行に行き、多くのことを学びながら過ごすことができました。初めて見る歴史的建造物が数多くあり、それらは写真などで見るよりも想像以上に大きく・綺麗で・感動的なものでした。

一日目は移動が多く、それだけでとても疲れるものでした。ですが、飛行機に初めて乗れたことや、空からの景色を見ることができたことは良かったです。吉本新喜劇の漫才は、あまり直接見ることがないので新鮮で面白いものでした。

二日目は世界遺産である薬師寺へ見学に行き、お坊さんから薬師寺の歴史などを聞くことができ、普段の生活などでは知れないようなより深いことを学ぶことができました。薬師寺を後にした私たちは東大寺の見学に行きました。そこには奈良の大仏で有名な廬舎那仏などがあり、それらは想像よりも大きく迫力があり、感動的なものでした。その後は金閣寺へ向かいました。金閣寺を見る際天候に恵まれ、より綺麗な姿を拝見することができました。

京都・大阪の班別自主研修では京都の歴史に触れることを、東京では東京ならではのものを見ることを一番とし、市内を散策しました。京都・大阪の自主研修では、大阪天満宮やあべのハルカス・清水寺等の多くの場所を訪れました。清水寺は平安京遷都以前からの歴史があり、京都でも数少ない寺院の一つです。清水の舞台は地上から約一二メートルあり、そこから見ることのできる京都の街はとても壮観なものでした。

東京の自主研修では、東京タワーに行きました。東京タワーは二つの高さに分かれており、私たちは地上一五〇メートルのメインデッキに行き、景色を見てきました。

私はこの五日間で集団行動において一分一秒の時間の大切さや周りへ視野を広げる必要性など多くのことを学ぶことができました。また、楽しかったことや不安なことが多々ありましたが、周囲の方々や友人などに助けてもらいながらも、十分に満足のいく五日間の見学旅行でした。

農業クラブ各大会の記録

◎全道技術競技大会
（八月一日　岩見沢市）
農業鑑定競技
コース：農業
北連最優秀賞　荒瀬　銀士（３Ａ）
コース：食品
全道最優秀賞　吉田ゆりか（３Ｍ）
優秀賞　樋口　萌々（３Ｍ）

優秀賞　藤井　実穂（３Ｍ）
優秀賞　横井　響（２Ｍ）
コース：森林
北連最優秀賞　滝吉　将暉（３Ｆ）
優秀賞　市川　諒（２Ｆ）
コース：生活
全道最優秀賞　石尾さくら（３Ｌ）
優秀賞　川原　ゆう（１Ｌ）
平板測量競技
全道最優秀賞　高嶋　優斗・鈴木　大翔・中坪　李香（２Ｆ）
農業情報処理競技
全道最優秀賞　宮野　百夏（３Ｍ）
優秀賞　千葉あかり（２Ｌ）
家畜審査競技
全道最優秀賞　中木　星菜（３Ａ）
優秀賞　梅本虎之介（３Ａ）
フラワーアレンジメント競技
優秀賞　深瀬　萌香（３Ｌ）

◎全道意見発表大会

（八月二十二日～二十三日　壮瞥町）

【分野Ⅱ類（開発・保全・創造）】
最優秀賞
食品科学科三年　横井　愛良
『ホエーに光りを！』
【分野Ⅲ類（ヒューマンサービス）】
最優秀賞
食品科学科三年　藤井　実穂
『地域農業を繋ぐ架け橋に』

◎農業クラブ全国大会

（十月二四日～二五日　山形県・宮城県・福島県）

農業鑑定競技
コース：食品
優秀賞　吉田ゆりか（３Ｍ）
優秀賞　樋口　萌々（３Ｍ）
コース：森林
優秀賞　市川　諒（２Ｆ）
コース：生活
優秀賞　石尾さくら（３Ｌ）
優秀賞　川原　ゆう（１Ｌ）
意見発表大会
【分野Ⅲ類（ヒューマンサービス）】
優秀賞
食品科学科三年　藤井　実穂
『地域農業を繋ぐ架け橋に』
プロジェクト発表会
【分野Ⅱ類（開発・保全・創造）】
優秀賞
食品科学科米粉班
『米タウン旭川から届けたい！
～米粉の魅力探究プロジェクト～』

農業クラブ全国大会に出場して

食品科学科三年
藤井　実穂

十月二十二日から二十四日にかけて山形県・宮城県・福島県で行われた第七十回日本学校農業クラブ全国大会令和元年度南東北大会に参加しました。

私は意見発表大会に三年間取り組んできました。一・二年生の頃は結果を残すことができませんでしたが、三年目となった今年は今までの経験を生かし、全国大会行きを決めることができました。

全国大会に向けての練習では発表が自分の思うようにできず、行き詰まることもありました。しかし、全国大会に行く仲間の頑張っている姿が〝私ももっと頑張らないといけない〟と奮起させてくれました。

全国大会当日では出場者全員ともレベルが高く、勉強になることが多くありました。発表までずっと緊張していましたが、いざ自分の番が来て、発表すると、発表している間に楽しくなり、今までの自分を超えるよい発表ができました。

最終日の大会式典では南東北大会三県の復興の様子を見ることができ、人とのつながりや協力することの素晴らしさを実感しました。

全国大会には本校から二十一名で参加することができ、楽しい思い出を作ることができました。大会の結果としては優秀賞をいただくことができ、自分が頑張ってきた努力が報われた気がして嬉しかったです。

今まで指導してくださった先生方、励ましてくれた友人や家族、大会に向けて一緒に頑張ってくれた仲間には感謝の気持ちでいっぱいです。

次年度の全国大会は静岡県で行われます。

三大事業に取り組むことは簡単ではありませんが、取り組んだ人にしかわからない喜びや達成感があり、良い経験となります。一・二年生の皆さんも積極的に三大事業に取り組んでいってほしいと思います。

台湾視察研修報告

一年森林科学科担任　**大村　竜二**

十一月四日からの五日間、来年度の見学旅行を見据えた台湾視察研修が実施されました。大まかな行程は以下の通りです。

一日目　出国
二日目　学校訪問・打合せ
三日目　北海道産品物産カフェ視察、九份視察
四日目　台北市内観光地（故宮博物館、行天宮等）視察
五日目　帰国

本視察の大きな目的の一つが学校交流を実施する二校との打合せでした。訪問した二校とも、来年度の見学旅行に向けて様々な準備を進めてくれていました。本校の学科の学習内容から、どのような体験学習が適切かなど親身に考えてくださり、充実した打合せができました。

また、故宮博物館や行天宮などといった台湾の名所の視察では、四クラスが見学するのに十分なキャパシティがあるか、視察経路はどの順が適切かなど、現地ガイドにアドバイスをいただきながら、具体的な行程をイメージすることができました。

台湾には多数の高校が見学旅行で訪れており、至る所にその姿が見られました。数名の高校生に旅行の感想を聞いたところ、口々に「楽しいです」という言葉が聞かれました。本校でも生徒にとって良い思い出となり、国際的な見聞が広げられる見学旅行になるよう準備を進めて参ります。

忠烈祠

学校訪問打合せ

行天宮

本校・台湾両校長

中世記念堂

台湾の高校生

旭川農業高校版

農業人材育成地域連携協議会事業

農業科学科一年　農業視察

目　的：農の雇用について視野を広げるための視察研修
日　時：令和元年七月十一日（木）
　　8：50～15：15
視察先：㈱ベイリッチランドファーム（美瑛町）
　　㈱ファームズ千代田（美瑛町）
　　㈱サカタのタネ研究農場（東神楽町）

㈱ベイリッチファーム訪問

農業科学科一年
原田　羽那

今回の農業視察学習でベイリッチランドファームに伺いました。

ベイリッチランドファームでは約四百頭の牛を飼っていて、その中の百八十頭が乳牛です。ここでは、牛が放し飼いで、好きな時間にえさを食べて搾乳するといった、牛がのびのびとできる飼育方法でした。そこで私が驚いたのは、牛一頭が一日に食べるえさの量と排泄物の量です。ここでは、一日平均五十キロ食べ、六十キロ近くの排泄をするそうです。搾乳はロボットが行っていて、搾乳台が体重計になっていて、ロボット内にその牛の情報がすべて入っています。ブラッシングをした後、レーザーで乳頭を探し、毎回同じように搾乳をしてくれるので牛はストレスを感じることなく搾乳ができます。牛が順番を待ち、並ぶ姿はとても可愛いと思いました。

そして、ここには子牛が個々で飼われている施設もありました。一ヶ月未満の子牛たちはすごくふわふわでスタイルがよく可愛いらしいと感じました。子牛だけはなく、育児放棄された羊もいて子牛と同じ管理がされていました。

この視察学習で、農業高校とは異なる飼育方法について学ぶことができてすごくよい経験になりました。この経験を生かして今後の授業に役立てたいと思いました。

㈱ファームズ千代田訪問

農業科学科一年
加藤　頼亜

今回、農事視察学習で三つの会社に伺い、学校では学ぶことのできないことを学ぶことができました。その中で特に印象的だったのが、ファームズ千代田での学習です。

ここでは、広大な敷地でびえい牛というブランド牛が育てられていたり、そこで飼養されている乳牛から搾られた生乳を使った加工品などがあったり、一つの場所でたくさんのことをしていたことに驚きを感じました。

和牛の施設に伺うと、代表取締役社長のアブガンドロージン・アバラゼテさんからお話を聞くことができました。印象的だった話は、出生からすべての管理を行っており、それが肉の柔らかさにつながっていることを教えていただきました。実際に牛舎を見せていただくと、そこには私が目にしたことがない大きな牛がいました。よく見ると旭農で管理されている牛とは違い、除角されておらず、角が生えていました。その迫力に私はかっこいいと思いました。

その後、ふれあい牧場に行くと、うさぎやポニー、ダチョウなどたくさんの動物と出会い、戯れることができました。

私はこの視察学習で農業についてたくさんのことを学ぶことができました。この経験を踏まえつつ、二年後にどのようなところに就職するか考えていきたいと思います。

㈱サカタのタネ研究農場訪問

農業科学科一年
梅原　空大

今回、農業視察学習でいくつかの会社に伺いました。その中で一番興味深かったのがサカタのタネでした。その会社では、消費者にはより美味しく、生産者にはより作りやすいものを提供するために品種改良を進めています。そして様々な国、地域で販売を行っています。そのため、従業員は外国人も少なくなく、様々な国にサカタのタネがありますが、花は各国の求めるものがほぼ共通らしく日本とデンマークにだけあり品種改良を進めています。

話を伺う中、様々な知識を得ることができましたが難しく理解できなかった部分も少なくありませんでした。その話の中で一番興味を持ったのは、品種改良の工程についてです。個人的に品種改良という言葉をよく使います。品種改良には長くても五年以上、短くできる果菜類でも一年に三回のペースのため時間がかかります。その期間の中で大量に試食する係がいて、品種改良完成後その食材を見たくなくなるほど大変だそうです。

サカタのタネに伺って、普段授業では学ぶことのできないとても貴重な話を伺うことができました。自分の知識不足で理解できなかった部分もあるので今後の授業で知識を深め、もっと詳しく学んでいきたいと思います。